

第 58 回日経・経済図書文化賞決まる

2015 年 11 月 3 日発表

日本経済新聞社と日本経済研究センター共催の 2015 年度・第 58 回「日経・経済図書文化賞」受賞図書は、次のように決まりました。

《受賞図書》賞（賞金 100 万円および副賞として記念品を著者へ、賞牌を出版社へ贈呈）

「実験制度会計論—未来の会計をデザインする」

田口聡志著（中央経済社）

「アウトソーシングの国際経済学—グローバル貿易の変貌と日本企業のマイクロ・データ分析」

富浦英一著（日本評論社）

「拡大する直接投資と日本企業—世界のなかの日本経済：不確実性を超えて 7」

清田耕造著（NTT出版）

「計画の創発—サンシャイン計画と太陽光発電」

島本実著（有斐閣）

「近世日清通商関係史」

彭浩著（東京大学出版会）



総 評

現実的課題への意欲作

審査委員長／東京大学教授 吉川 洋

今年は日本経済の直面する現実的な課題を実証的に分析した書物が多く、審査は例年以上に白熱した。最終的に、いずれも意欲的な研究書ばかり、5冊の受賞が決まった。受賞作が5作となるのは2年ぶりである。

『実験制度会計論』（田口聡志著）は、副題にあるとおり、「未来の会計をデザインする」という野心的な構想を持った書物である。分析手法はゲーム理論と実験経済学で、会計制度の国際統合、不正会計など今日のかつ重要な問題を、ゲーム理論の視点から分析している。会計の制度設計などについて考察する上で有用な、新しい手法を開拓した点が多く、審査委員から高

く評価された。

『アウトソーシングの国際経済学』（富浦英一著）は、企業が用いる特有の部品やソフトウェアなどを海外に委託・外注し輸入するアウトソーシングについて、膨大な企業データを用いて分析した労作である。

何がアウトソーシングを決めるのかという観点から著者が長年にわたって発表してきた研究成果を柱に、読みやすくまとめられており、今後の日本企業の国際化戦略を考える上で私たちに多くの示唆を与えてくれる書と言えよう。

『拡大する直接投資と日本企業』（清田耕造著）は、直接投資が日本経済に与える影響について、実証分析に基づいて様々な角度から包括的に論じている。

19世紀末、当時新興国であった米国には欧州から資本が流入していたが、直接投資だけについてみると、資本は米国から欧州に流出していた。このことから分かるとおり、直接投資の本質はミクロの現象である。本書で展開される緻密で手堅い分析の存在意義・価値はまさにそこにある。

『計画の創発』（島本実著）は、太陽光発電などの開発を進めた「サンシャイン計画」について、30年以上にわたる歴史を、立案された計画、計画を担う企業や組織、さらに組織のなかで動く個人、という3つの視点から詳細に考察したユニークな経営書である。

芥川龍之介の小説『藪の中』ではないが、同じものであるはずの歴史的事実からそれぞれ違ったストーリーが生み出される。

『近世日清通商関係史』（彭浩著）は、最近利用可能になった中国側の史料と日本の史料を中国籍のまだ30代の若手研究者が丹念に読み込み比較することによって江戸時代、いわゆる鎖国時代に、日清間の貿易がどのように行われていたのか詳細に分析した研究書である。

日本が歴史上初めて当時の先進国、中国に追いついた18世紀の日中関係についての考察は、21世紀の両国関係を考える上でも私たちに様々な手掛かりを与えてくれるに違いない。

以上5つの受賞作以外にも今年は評価の高い書物が目白押しだった。

マクロ経済データの多くは国内総生産（GDP）の速報値のように事後的に改訂される。『経済データと政策決定』（小巻泰之著）は、政策を後知恵で評価するのではなく、リアルタイムデータで評価することの必要性を説いた優れた研究書だが、分析の対象領域が狭すぎるとの指摘が出て惜しくも選から漏れた。

『中小企業のマクロ・パフォーマンス』（後藤康雄著）は、中小企業の実像を多面的に捉えた好著だが、税制や信用保証についての言及が乏しいとの意見が出て、受賞を逃した。

『「学力」の経済学』（中室牧子著）は、実証分析の結果に基づく政策立案の重要性を説く読み物としても面白い啓蒙書だが、著者独自の研究成果に乏しいことから受賞には至らなかった。

『金融システム改革と東南アジア』（三重野文晴著）、『チャンネル間競争の経済分析』（成生達彦著）の2冊は、いずれも良書として評価は高かったが、メッセージ性、現実の変化との関連性などの点で難が指摘され、選外となった。

*本文中の「総評」「書評」は、2015年11月3日付日本経済新聞朝刊（特集面）から転載しています。

◇審査対象

2014年7月1日から15年6月30日(外国語著書は14年1～12月)の間に出版された日本語または日本人による外国語で書かれた著作で、本賞に参加を得たもの(一般の人が自由に購入できる図書に限る)。

◇審査委員

(委員長) 吉川洋東京大学教授

(委員) 八代尚宏昭和女子大学特命教授・国際基督教大学客員教授

斎藤修一橋大学名誉教授

岩井克人国際基督教大学客員教授

本多佑三関西大学教授

杉原薫政策研究大学院大学特別教授

伊藤元重東京大学教授

井堀利宏政策研究大学院大学教授

桜井久勝神戸大学教授

池尾和人慶応義塾大学教授

岡崎哲二東京大学教授

翁百合日本総合研究所副理事長

沼上幹一橋大学教授

大竹文雄大阪大学教授

松井彰彦東京大学教授

芹川洋一日本経済新聞社論説委員長

岩田一政日本経済研究センター理事長